第４学年　社会科（交通安全）　　　　　　　　　　　　　　場所　４年１組教室

　安全なくらし

　　　指導者　平井　彩夏

**１　単元の目標**

事故や事件から地域の人々の安全なくらしを守るための工夫や努力を見学したり、調査したり、資料を活用したりして調べ、警察や関係諸機関の働きや、地域の人々と協力していることについて考え、自分ができることを表現することができる。

**２　新学習指導要領との関連**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。 | 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力に着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え表現している。 | 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、より良い社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度で授業に取り組む。 |

　　資質・能力の三つの柱としての目標

**３　単元について**

社会科「安全なくらし」では、消防署や警察署などの関係機関や地域の人々の活動について学習する。地域の安全を守る警察の役割や思いに触れ、自分たちの生活を振り返りたい。また、事故や事件の原因について考え、自分でできる交通事故や事件の予防について話し合うことで危険を予測する力や回避する能力を育てていきたい。

**４　安全教育の視点に迫るための手だて**

**・**関連教材の提示

警察・消防に関する本や関連教材を児童が手に取り、いつでも見たり、調べたりできるようにする。

**・**視覚的に捉えられる授業

警察署見学に行き、警察官の仕事を身近で見て、疑問に感じたことをインタビューする。

**５　指導計画（７時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○主な学習活動 | ◎指導上の留意点　■評価  ☆安全教育の視点に立った留意点 |
| １ | ○絵や写真、グラフから自分たちの身近に事故や事件の危険があることに気付き、安全なくらしを守る働きに関心をもつ。 | ☆110番にかかる電話の数を１日分に置き換え、毎日どこかで事故が起こっていることから、自分の身近でも起こりうることに気付かせる。  ■事故や事件の恐ろしさや、身近なところでも起こりうることに関心をもっている。 |
| ２ | 〇事故や事件から人々の安全を守るための働きについて調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。 | ◎緊急に対処するために何かしくみや取組があるのではないかという問題意識をもてるようにする。  ■事故や事件から人々の安全なくらしを守るためのしくみや取組について、学習問題をつくり、調べる計画を立てる。 |
| ３ | 〇事故や事件が起きたときの関係諸機関の働きを調べ、相互に連絡を取り、協力して緊急に対処する体制を取っていることを考える。 | ◎警察官だけではなく、どのような人がどのような活動をしているかに気付かせる。  ■事故や事件が発生したときに、関係諸機関が組織的・計画的に活動していることを調べる。 |
| ４ | 〇日頃から事故や事件の発生時に備えるとともに、事故や事件を防ぐための警察の働きについて調べる。 | ◎警察がそれぞれの仕事をしている理由について考えさせる。  ■くらしの安全を守るための警察の仕事を理解する。 |
| ５  （本時） | 〇地域には、事故や事件から人々を守るためにどのような施設・設備があるかを調べる。 | ☆どのような施設設備があるか予想して調べる。  ■調べたことから、安全を守る施設・設備が計画的に配置され、自分たちの安全を守っていることを考える。 |
| ６ | 〇安全なくらしを守るための地域の人々の働きについて調べ、警察だけではなく、地域の人々みんなが安全なくらしを守っていることについて考える。 | ☆写真をもとに、安全を守る働きをしている地域の人に感心を向ける。  ■地域の人々が、自分たちで安全なくらしを守るたえの工夫や努力をしていることを考える。 |
| ７ | 〇学習問題について分かったことをまとめる。 | ☆警察署の人たち、消防署の人たち、地域の人たちなどがどう協力して安全な暮らしを守っているのか関係図に整理する。  ■地域の安全なくらしのために地域の人と共に自分たちができることをしようとする。 |

**６　本時の展開 （５／７）**

**（１）ねらい**

地域には、事故から人々を守るための施設・設備があり、自分たちの安全を守っていることを知り、安全な行動の仕方について考える。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動  ・予想される児童の反応 | ◎教科の留意点　■評価（評価方法）  ☆安全教育の視点に立った留意点 |
| ○警察の仕事について振り返る。  地域にある安全のための施設・設備について考えよう。  ○地域にある安全のための施設・設備について考える。  事故や歩行者の安全を守るための施設・設備  ・信号や横断歩道、歩道橋、ガードレールなどがある。  車に注意を促すための施設・設備  ・カーブミラー、交通標識などがある。  事件から安全を守るための施設・設備  ・街灯、「子供110番の家」のステッカー、警察官立ち寄り所のステッカーなどがある。  ○班で意見を交換する。  ○どのような施設・設備がどのような場所にあるのかについて班で話し合い、ホワイトボードにまとめる。  歩道橋  ・車が多いから大きな交差点にある。  カーブミラー  ・歩行者が見やすいように曲がり角にある。  ○施設・設備は自分たちにどのように役立っているかをまとめる。  ・交通事故や事件から自分たちの安全を守っている。  ・カーブミラーなどを見て、車が来るかどうかを予測して行動する。  ・横断歩道ではふざけないで渡る。 | ◎今まで調べてきた警察の仕事について、警察署見学をした時のことを思い出しながら振り返る。  ☆いくつか例を出し、どのような施設・設備があるかを予想し、考えさせる。  ■事故や事件から安全を守る施設・設備について考え、記録する。【思・判・表】（発言・ノート）  ☆写真を提示し、設置している場所に注目をさせる。  ■安全を守る施設・設備が計画的に配置され、自分たちの安全を守っていることを知り、安全な行動の仕方について考える。【思・判・表】（発言・ノート） |